

会 議 録

会 議 名	令和元年度（2019年度）第4回八王子市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会	
日 時	令和元年（2019年）8月25日（日）午後3時05分～4時20分	
場 所	八王子市役所 本庁舎 801 会議室	
出席者氏名	委 員	大宝院清孝副会長、荒井容子委員、石田健太郎委員、内野彰裕委員、岡崎理香委員、加藤悟委員、鈴木紀幸委員、田上美穂委員、野中真理子委員、松井優佳委員、松野美樹委員、三入重夫委員、森直美委員、（副会長、以下五十音順）
	関連所管	
	事務局	澤田子どものしあわせ課長、小池児童青少年課長、小野主査
欠席者氏名	井上仁会長、石井淳委員、大島達也委員、佐戸博委員、眞保智子委員、菅野周平委員、町田利恵委員、三浦誠委員、山本由佳理委員、渡辺恭秀委員	
議 題	議事 1 次期計画策定に向けて、子ども企画委員及び学生リーダーへのヒアリング及び意見交換	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由		
傍聴人の数		
配付資料名		
会議の内容	別紙のとおり	
会議録署名人	令和元年（2019年）11月23日 荒井 容子	

(会議の内容)

子ども☆ミライ会議で発表された、子どものまちづくりに対する意見や提案について、次期計画に活かすため、テーマごとに分かれてヒアリング及び意見交換を行った。

提言テーマ1 「子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち」

	要 旨
子ども企画委員の提案	<ul style="list-style-type: none">・暑さ対策や雨対策のため、公園に屋根を設置したほうが良い。また、柵を設置し、ボール遊びができるようにしてはどうか。・天候に関わらず親子で遊べる屋内アスレチックがほしい。さらに、自然を活かした屋外アスレチックもあると良い。
市長・教育長の回答	<ul style="list-style-type: none">・公園で遊ぶときは、空を観察して、雨が降りそう、暑くなってきたなど、自ら変化に気づくことも大切。・簡単なボール遊びについては、フェンスのある運動場などで、ぜひ楽しんでもらいたい。・アスレチックは、たくさんの子どもたちが楽しむことができるが、土地の確保や施設建設に課題もあり、なかなか難しい提案。・わくわくビレッジや児童館など既存の施設も十分楽しめる施設であり、これからも充実していくので、ぜひ活用してもらいたい。
ヒアリング内容	<ul style="list-style-type: none">・子どもが提案した理由は、学校でボール遊びができない現状があるため。・公園でボール遊びをしていたが、近所の苦情により、できなくなっている状況もある。・遊具やアスレチックの提案については、子どもが今の公園に満足していない背景があった。・一方で子どもも忙しく、公園で遊ぶ時間が減っている状況もある。・子ども企画委員の住む地区には児童館がなく、行くことができないとのことであった。・どんな公園が良いのか、子どもだけでは明確化が難しい状況もある。

提言テーマ2 「犯罪がなく市民全員が安心してくらすまち」

	要 旨
子ども企画委員の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全対策について提案。車道と歩道を分ける新しいタイプのガードレールを設置してはどうか。ガードレールについているローラーが衝撃を吸収して、事故を減らすというもの。 ・犬の散歩による地域パトロールを提案。登下校時は犬の散歩の時間と同じ。「パトロール中」と書かれた散歩バッグや犬用の服、バンダナなどを作成し、配布する。散歩のときに身につけてもらい、犯罪を抑止する。子どもたちに安心感をあたえることができる。 ・防犯に関する情報共有にSNSの活用を。また、交番に人がいる時間を増やしては。
市長・教育長の回答	<ul style="list-style-type: none"> ・提案のあったローラータイプのガードレールについては、八王子市では採用事例がないが、防護柵を設置する際は、その現場状況に応じて、適切な車両用防護柵を設置していきたい。 ・買い物の時間を児童の下校時間にあわせて、買い物や散歩をしながらの見守り「ながら見守り」を呼びかけている。犬の散歩をしながらの「わんわんパトロール」はすでに実施している地域もあり非常に効果的である。 ・パトロール中と分かるようなもののデザインや配布方法など、いただいた提案を活かし、これからも「ながら見守り」を進めていく。 ・市では防犯情報を随時メールやSNSにより配信している。また、週に一度犯罪被害発生状況をメールで配信しており、市民センターや町会の掲示板に貼ってもらうようお願いしている。これからも市から発信する情報を活用していただき、情報共有を進めていきたい。
ヒアリング内容	<ul style="list-style-type: none"> ・提案した子どもからは、防犯や交通安全への強い願いが感じられる。 ・すでに取り組んでいる内容であっても、担当課から「いっしょにやってみようよ」と歩み寄ってくれると良い。

提言テーマ3 「元気よくあいさつする世界一笑顔あふれるまち」

	要 旨
子ども企画委員の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生と高校生の交流機会を増やすことを提案。 ・中学校と小学校では、さまざまな交流が行われ、中学生に対して親しみを持てるようになった。高校の学校公開は生徒と話す機会がほとんどなく、高校生と交流するのはなかなか難しかった。 ・授業以外にも学習ボランティアや懇談会を通じた交流があれば、高校生に親しみを感じられる。近い学校同士で行えば、ひとつの地域としてのまとまりにもつながる。 ・交流によりあいさつが生まれるきっかけができる。お互いにあいさつする中学生、高校生が大人になったとき、あいさつするまちが実現する。
市長・教育長の回答	<ul style="list-style-type: none"> ・八王子市では小・中一貫教育を進めているが、八王子の子どもたちに、保育園や幼稚園、小学校、中学校、高校と、つながりを持てるような事業を推奨していきたいと改めて思った。 ・幼児・園児、小学生、中学生、高校生と区切っているが、みんな八王子の子どもとして、つながっている。高校生が、小学校で学習指導を行うなど、様々なかたちで、小・中学生の面倒を見てくれるお兄さん、お姉さんになってくれていて、高校生にとってもすごく良い経験になっていると思う。 ・中学生と高校生の交流など、異年齢交流や多世代交流については、児童館でも積極的に取り組んでいる。中高生が日常的な居場所として利用し、様々なイベントの実行委員として活躍している。高校生になっても児童館を利用し、元気よくあいさつを交わせるまちの実現を目指して、中学生と高校生が積極的に交流をしてほしい。
ヒアリング内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学生から見て高校生は少し怖い存在であるが、交流したいという気持ちは持っている。大学生に対しては特に怖い印象はないとのこと。 ・高校生になると地域から離れていくということも影響しているのではないかと。

提言テーマ4 「自然を活かした観光が盛んで楽しめるまち」

	要 旨
子ども企画委員の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・高尾山へのツアーを提案。美しい高尾山を八王子以外の方にも知ってもらい、高尾山の自然を守っていくことを目的とし、ボランティアの子どもガイドが案内する。
市長・教育長の回答	<ul style="list-style-type: none"> ・高尾山には約1,300種類の植物が息づく生態系がある。八王子観光コンベンション協会では、高尾山の自然を楽しむハイキングガイドツアーを毎月2回実施している。 ・子どもガイドが高尾山の魅力を世界中に発信したら、どんなに素晴らしいことか。子どもたちには高尾山をはじめ、八王子のことを好きになってもらい、八王子市のガイドになれるよう頑張ってもらいたい。
ヒアリング内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとっても、高尾山は世界に誇れる資産である。 ・子どもの目線でガイドすることで、また違った魅力が伝わるはずであり、非常に良い提案であった。 ・ガイドをするための養成講座があるなら、受講してみたいと言っており、子どもが地域に参加したい意欲を感じた。高尾山に外国人が多く訪れていることも理解しており、外国語のパンフレットの必要性なども考えていた。 ・保育園や幼稚園が高尾山に遠足に行く際にガイドとして協力することも考えており、園児にとっても良い取組となるものである。 ・八王子の魅力について、自分が感じたことを自分の言葉で伝えたいという気持ちを強く感じた。 ・「子どもの意見を実現するにあたっては、大人の協力が不可欠である」との意見があり、共感した。

提言テーマ5 「商工業によって栄え、交通が便利なまち」

	要 旨
子ども企画委員の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・八王子市の魅力を伝えるイベント「グルメフェス」の提案。 ・このイベントでは、子どもが屋台を出したり、八王子市内のたくさんのお店が屋台を出し、八王子ラーメン、八王子ナポリタンのNo.1を決定する。
市長・教育長の回答	<ul style="list-style-type: none"> ・現在八王子には、市内のレストランに八王子産の野菜や農産品を使った自慢の料理を提供するグルメイベントがあり、八王子の魅力を発信している。子どもたちが主役となるグルメイベントとしては、「こども屋台選手権」がある。 ・このグルメイベントは、子どもたちがチームを結成し、八王子産の食材を使用したギョーザやハンバーガー等、アイデアが詰まったメニューを屋台で提供するもの。 ・来年は皆さんもチームを結成し、出場してみてもいい。将来はフェスティバルの担い手となって、八王子の魅力発信にご協力をいただきたい。
ヒアリング内容	<ul style="list-style-type: none"> ・提案者はこども屋台選手権の出場者でもあり、このイベントを大切にしたいという思いが強く感じられた。 ・大人が提供した遊びを子どもがやるという機会が増えており、子ども自身が考えて遊ぶという機会や場所が減っている。子どもが自主的に取り組む機会を充実させたい。 ・学生リーダーがよくまとめてくれていた

学生リーダーとの意見交換要旨

<ul style="list-style-type: none"> ・大学生になると八王子市のことを知る機会が減ってしまう。情報を得る機会をどう創り出すか、行政との接点について関心を持っている。 ・学生リーダーからの次のような発言があり、市が子どもミライ会議を継続して実施すべき意義について再確認をした。 「大学卒業後は八王子を離れることになるかもしれないが、結婚、出産を機に戻ってきたいと思っている。その原点は、子ども会議に参加した経験であり、参加した子どもたちも八王子に愛着を持ってくれるとうれしい」 「子ども委員から学生リーダーまで続けてこられたのは、当時の学生リーダーや職員に良くしてもらったことと、子ども会議自体が楽しかったから。また、子どもの提言が実現していくのを実際に感じることもできたのも、モチベーションにつながった。」
